

「東部中学校区6小学校 再編活性化 意見聴取会」 議事録（要点筆記）
（西黒部小学校）

日時：令和6年6月3日（月）19:00～20:30

場所：西黒部小学校 体育館

出席者：

【地域住民・保護者】33人

【学校関係者】2人

【教育委員会】教育長 中田雅喜

事務局長 刀根和宜

事務局次長 金谷勝弘

教育総務課長 西浦有一

教育総務課 学校活性化推進室長 北畠和幸

教育総務課 学校活性化推進室主幹 清水尚美

教育総務課 学校活性化推進室主任 地主博一

【市議会】小川朋子 奥出かよ子 西口真理 山本芳敬（五十音順・敬称略）

挨拶：教育長

お集まりいただき、ありがとうございます。

子ども達の学びを豊かにするために、また次の世代へ繋げていくために、これまで議論を進めてきました。そして今、一定の方向性が形成されつつあります。

さらに良いものにしていくために、本日は皆様からご意見をいただきます。忌憚のないご意見を願います。

教育委員会自己紹介

資料説明：事務局

資料『松阪市立東部中学校区6小学校 再編活性化に関わる意見聴取会』

（4ページ）

・全国的に児童生徒数が減少していることから、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」（文部科学省）が策定された。

・松阪市教育委員会では、令和2年度に検討委員会を立ち上げ、外部の委員による検討を重ね、令和5年3月に「松阪市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を策定した。

（2・3ページ）

・松阪市では、4人グループ5つで議論を深められるなどの理由から、「最低限確保したい学校規模」を1学級20人程度とした。

・東部中学校区6小学校のうち5校が対象校であることから、東部中学校区全体で再編活性化の検討を開始した。掃水小学校は対象校ではないが、学校規模としては「小規模校」に分類される。

(4ページ)

- ・令和5年度は、各小学校区において、学校との関わりが深い方々から意見交換を開始した。
- ・住民自治協議会からの提案を受け、「東部中学校区学校活性化協議会」を設置し、各小学校区から保護者代表・住民代表・学校運営協議会代表・学校代表が集まって議論を重ねた。
- ・第3回東部中学校区学校活性化協議会において、再編活性化の方向性が確認された。

(5・6ページ)

・「6小学校を1校に統合する」という意見もあったが、最終的に「複式学級を早期に解消する」ことを最優先に、「6小学校を2校に統合する」方向で、学校活性化協議会で案を取りまとめていただいた。

・学校活性化協議会内に設置する準備部会は、地域・学校運営協議会・保護者・学校の代表者で委員を構成する。検討内容としては、校名・校歌・カリキュラム・学校運営協議会組織・学校予算・学校備品・通学路・スクールバス・学童・PTA組織などがある。

・『学校活性化協議会だより』やホームページで周知を図る。

・配慮すべき主な事項⑤「新入学児童に対する配慮」については、統合が具体的になるにつれ、要望する声をいただくようになった。今後、準備部会で協議いただきたい。

(9ページ)

・「地域総ぐるみでの教育」として、コミュニティ・スクール、探究的な学習、小中連携教育を3本柱として取り組む。

・コミュニティ・スクールについては、中学校区で連携・協働できる組織を構築する。今後は、クラブ活動の地域移行やPTA組織についてなども、学校運営協議会で検討をしていくことが考えられる。

・校区が広がることを利用して、現在取り組んでいる「探究的な学習」をさらに充実させていく。それにより、子どもたちと地域の方々が繋がる機会にもなる。また、子どもたちの地域に対する誇りや愛着心の育成にもつながる。

・コミュニティ・スクールや探究的な学習を支えるために、「小中連携教育」を推進する。また、就学前教育との連携も図る。

1年をかけて、保護者、地域住民、学校運営協議会委員、学校活性化協議会委員の方々との議論を進めてまいりました。本日は、「子どもたちのより良い教育環境の実現」の観点から、皆様のご意見をお聴かせください。

質疑応答

参加者

資料に「2校を1校とする。」とあるが、例えば「〇人以下になったら」などの基準があれば教えてほしい。

事務局

基本方針では、対象校としての基準を設けていますが、これを下回らないから「検討しない。」とい

う訳ではありません。これからも継続して検討していきます。

参加者

学校跡地の活用については、どのように考えているのか。

事務局

体育館や校舎の避難所としての機能は、維持していきます。

全国の様々な活用事例もお示ししながら、地域の意向を聞かせていただいて、決めていきたいと思えます。校舎の一部を活用する形も可能です。「令和8年4月までに」ということではないので、ゆっくり考えていただいて結構です。

参加者

幼稚園の休園の際に、自治会から松阪市に対して「教室を自治会に貸してほしい。」「遊具を使いやすいようにしてほしい。」という要望書を提出したが、「休園中なので、返事できない。」との回答であった。現在、学童として活用していることもあり、地域に対する丁寧な説明や細かな配慮をしてほしかったと思う。

教育長

他の事例を見ると、学校跡地を効果的に使っている場合とそうではない場合があります。他市では、不登校の子どもたちのためのフリースクールや、パン屋などの活用事例もあります。

教育委員会が活用方法を決めるのではなく、皆さんから「こんな使い方をしたい。」などのご意見をいただきながら、一緒に考えていきたいと思えます。必要に応じて、関係部局にも入ってもらいます。話がまとまったら、『学校活性化協議会だより』でお知らせをさせていただきます。

参加者

人数が減るのは仕方がないことだが、全国を見てみると、地域の活性化に取り組んでいるところがある。松阪市では、人口を増やす対策は考えていないのか。

事務局

松阪市では、「子育て一番宣言」を掲げて、子育てしやすいまちをめざしています。教育委員会だけでなく、市全体で取り組んでいますが、中々結果に結びついていけないのが現状です。

これからもしっかり取り組んでいきたいと思えます。

参加者

統合先を朝見小学校にした理由を教えてください。

事務局

朝見小学校の校舎を活用する理由としては、朝見小学校の校舎が一番新しいことと、朝見小学校の児童数が一番多く、移動する人数が一番少なくなるからです。

参加者

まず2校ずつ（西黒部小と東黒部小、機殿小と朝見小）で統合してから、2、3年後に4校で統合する流れではどうか。

事務局

児童の在学中に何度も環境変化が起きることになるため、短期間に統合を繰り返すことは考えていません。

参加者

「通学路の設定・安全確保」と「スクールバスの導入」のどちらを優先するのか。市内（市街地）とは状況も違うので、しっかり考えていただきたい。

事務局

現在の通学路は、地域、保護者、学校の協力により安全が確認されていると思います。ただ、学校が変わることによって通学路が変わる児童も出てくると思いますので、改めて通学路の確認が必要となります。

併せて、スクールバスの導入も柔軟に対応していきたいと思います。先進事例では、スクールバスの導入により子どもが歩かなくなったとの報告もありますので、ある程度歩くことも大切であると考えています。

これから、準備部会の中で、保護者や地域の皆さんと議論していきます。

参加者

住まなくなった家の傷みが早いように、使わなくなった校舎は傷みが早いのではないだろうか。校舎の維持管理については、どのように考えているのか。

周辺の道路は、車が通行するのがやっとの状態なので、スクールバスの停留所を設置することが難しい。また、酷暑をしのぐ場所もないので、旧学校を停留所にするのが良いと思う。

田舎と都市部では状況も違うので、様々な視点から考えていただきたい。

事務局

学校施設の活用方法については、皆さんで考えていただきますが、決まるまでは教育委員会が管理をすることになります。

スクールバスの停留所については、地域の皆さんの方が地域の事情を知ってもらっているので、教えていただきたいと思います。雨風をしのぐ場所についても、学校運営協議会などで協議をしていただき、できる限り対応していきたいと思います。

参加者

廃校になるのか、休校になるのか。廃校にすると、電気代などをこちら（地域）が負担しないと聞かないと聞いたことがある。

教育長

活用方法が決まるまでの間は、教育委員会の負担となります。

跡地の活用について、教育委員会が一方的に決めるつもりはありません。教育委員会から様々な事例の提示はさせていただきますが、最終的に決めていただくのは地域です。地域の活性化につながる活用の方法について、一緒に議論をさせていただきます。

参加者

東黒部小学校と西黒部小学校でボランティアをさせていただいている。人数が少ないので、経済的な面からも統合した方が良いということは理解できるが、人数が少ないから教育上駄目だとは思わない。先生方も頑張ってみえる。

どの学校も歴史を持っている。それが、統合することで消えるのではないかと不安になる。東黒部小学校では、1年生でも「下機殿」を知っている。鶺鴒小学校では、「松浦武四郎」を知っている。西黒部小学校では、西黒部史を作った「西山さん」の存在を知っている。

掃水小学校では、奥田三角さんの紙芝居を作っていると聞いた。他の校区でも、紙芝居を作って、低学年のうちに地域の歴史を教えてあげてほしいと思う。

教育長

小規模校では教職員が出張に出ていきにくいなどの課題もあります。

10年先が予想できない時代の中で、子どもたちには、自ら課題を見つけて解決する力、その際に様々な友だちの意見を聞く力、まとめて伝える力などが求められています。これらの力を育むためには、自分の身の回りの課題を見つけて、仮説を立てて、調べて、議論をしていく「探究的な学習」が有効と言えます。そして、そのためには、一定の人数が必要だと考えています。

松阪で育った子どもたちの中に、「自分が受けた教育を、自分の子どもにも受けさせたい。」という思いで、松阪に戻ってきた方がみえました。これからも、そんな環境づくりをめざしていきたいと思います。そのためには、地域に愛着が持てる、地域の課題を自分事として捉えることができる「探究的な学習」を、カリキュラムの中に取り入れていく必要があります。「福井文右衛門さん」や「奥田三角さん」について調べていくことも、「探究的な学習」に繋がっていきます。

地域に根差した教育が、地域の活性化に繋がっていけば有り難いと思います。

参加者

スクールバスは、保護者が負担するのか。

来年度に1年生、2年生になる子どもがいるが、統合時に体操服を買い替えないといけないのか。

事務局

運賃の利用者負担は考えていません。

学用品については、これまでの物を使っただけのように、準備部会で検討の上、決めていきます。

参加者

3年生の子どもと、来年度入学する子どもがいる。入学する子どもが第1子であれば、「最初から統合予定校に入学できないか。」と考えると思う。

来年度の入学予定児童10人の内、3人が統合校に入学することになれば、西黒部小学校の入学児童

が少なくなるので、それはどうなのかと思う。また、西黒部の学童の人数が減れば、「西黒部の学童に行きたくない。」となるかもしれない。子育てしやすいまちをめざすのであれば、その辺りのことも考えていただきたい。

現在、堤防の道を登校しているが、朝の時間帯は出勤する車も多く、これから児童がさらに少なくなると、集団登校であっても不安である。スクールバスによる体力面の低下を懸念されていたが、子どもの安全を第一に考えてほしい。朝見小学校側のスクールバスの停留所を、学校から少し離れたところに設置することで、歩かせることもできる。

私自身は外からきた者だが、地域の方は良い方ばかりで、有り難く思っている。朝見小学校に移ると、一から（関係性を）作り直すことになり、子どもだけでなく保護者にとっても負担である。

保護者の意見を聞く機会を持っていただきたい。ただ、仕事をしているので出にくい部分もある。その辺りのことも考えてほしい。

事務局

来年度入学予定児童は、西黒部小学校への入学が原則です。ただ、該当する保護者からの問い合わせが増えてきていることから、「入学校を選択できるようにするかどうかを、検討しましょう。」という内容です。

学童は、原則現状通りの運営を考えています。地域に学童があることで、子どもたちと地域の方々が触れ合う機会にもなります。こちらも準備部会で検討していきます。

登下校については、安全確保を優先していきます。ただ、スクールバスの停留所が多過ぎると、最初に乗った児童の乗車時間が長くなってしまふなどの課題も出てきます。教育委員会では地域の現状が分かりかねるので、皆さんから意見をいただきながら、議論を進めてまいります。

参加者

子どもが特別支援学級に在籍しており、登校時には親が付き添っている。スクールバスで登校することになった場合には、保護者が同乗できるのか。または、サポートする職員やボランティアを配置してもらえるのか。

教育長

個別の事案についても、これからの議論になります。特別支援教育については様々な配慮項目があるので、丁寧にお話をさせていただきます。

スクールバスについては、限られた台数の中での運行になりますので、それぞれの方が不安に感じてみえる部分を出していただきながら、納得解を形成できたらと思います。

参加者

令和8年度に入学予定の下の子どもも発達グレー。相談するのは、朝見小学校でよいのか。

教育長

現段階では、西黒部小学校、または教育委員会にご相談ください。上のお子さんの担任や校長先生など、声をかけてもらいやすい所に相談していただくのが良いと思います。教育委員会でも、様々な相談を受ける体制ができています。

今、就学前教育と小学校との連携に課題があると感じています。新しい東部中学校区では、保幼小中をしっかりと連携させていきたいと思います。

参加者

今日の話聞いて、意見を聞いてもらえていると感じた。

学校活性化協議会のような代表者の会議だけでなく、一般の方も含めた会議を持っていただきたい。

教育長

他市では教育委員会が案を示す形が多いですが、本市では丁寧に議論を積み重ねてきました。

これまでは、学校活性化協議会の会長をはじめ、代表者の方々に地域の様々な課題を出していただき、議論を進めてまいりました。代表者の方々の議論は、広く、深く、熱のある議論でありました。

そして、本日のような意見聴取会で、色々な方のご意見を聞かせていただいて、それをもとに教育委員会としての結論を出していきたいと考えています。最終的には、議会にも報告させていただきます。

子ども達の学びをさらに良いものにするためには、待ったなしの状況です。しかし、しっかりと議論をしていきたいとも思っています。

挨拶：局長

貴重なご意見たくさんいただき、ありがとうございました。今後の準備部会等での協議にしっかりと繋がっていききたいと思います。